



国立市役所にて

※要配慮者に負担を かけずに使用が可能。 トイレは最重要課題の1つ。

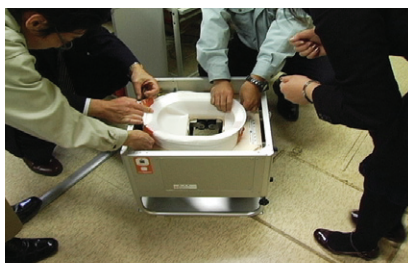
※要配慮者とは災害弱者・要保護者のことです。

避難支援プランの確立

国立市では、災害時の要配慮者対策として「まず避難」という事を考え、**避難支援プラン**を今後確立していく予定です。「一人で避難できない方でも、安全に避難していただけるよう支援者をつけるプランです。要配慮者の方は体育館等での生活が難しいので高齢者福祉施設を避難所に指定して、**その方に合った避難所生活をおくっていただく**事を計画に盛り込んでいます」と防災課 主任 黒澤様は話します。ラップボン・トレッカーは水を使わず、コンパクトで持ち運びが可能のため、施設の中などで要配慮者の方が楽に使用できる場所に設置する事ができます。

マンホールトイレにはない清潔感と処理のカンタンさ

「災害用としてマンホールトイレは備蓄していますが、阪神淡路大震災の時に汚物が便器に山盛りになっていたと言う事を聞きました。それではトイレから足が遠のくし、市の職員も掃除をしますので、やはり**清潔に使える事を第一に考えていきたいです**」（黒澤様）。ラップボン・トレッカーは特殊フィルムで一回毎に完全密封の袋にするので、ニオイも防げます。「**簡単かつ清潔に処理が出来るトイレ**であれば高齢者の方も嫌がらずに使って頂けると思います」（同氏）。



ラップボン・トレッカーの使い方講習会の様子

今後の防災時の要配慮者対策として、防災課課長 加藤様は次のように話します。「一番は支援者の確保です。自主防災組織・消防団・自治会などにお願ひし、なるべく多くの受皿をつくり、一人でも多くの要配慮者をカバーできるようにします。そのためにも職員の訓練に力を入れています。」

地域とのコミュニケーションを大切にす姿



国立市 総務部 防災課
課長 加藤 登志雄 様



国立市 総務部 防災課
防災・消防担当
主任 黒澤 重徳 様

導入商品

TRAKKER
ラップボン・トレッカー



国立市役所 総務部 防災課

市役所住所 〒186-8501 東京都国立市富士見台2-47-1
人口 74,225人(平成21年2月1日現在)
概要

白壁に赤い三角屋根のJR国立駅（現在工事中）から、南へ真っすぐ伸びる大学通りは幅が約44mもあり、まちのメインストリートです。大正から昭和のはじめにかけての開発当時は、飛行機の滑走路にも使われていました。現在、その道の両側のグリーンベルトには、桜といちょうが交互に植えられ、春には桜の花びらのカーテンがまちをピンク色に染めて、秋にはいちょうの葉が黄金色の輝きを放ちます。この景色は新東京百景にも選ばれ、「くにたち」の象徴となっています。

ラップボン セイフティーコール **0120-208-718** <http://www.wrappon.com>
Free Call E-mail:kaigo@nihonsafety.com

資料ご希望の方は、フリーダイヤル・メール・ホームページからお気軽にどうぞ

日本セイフティー株式会社 ラップボン事業部 〒112-0002 東京都文京区小石川1-3-11